

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定 (実施結果))

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成を目標とした授業実践を行う。</p> <p>②生徒の国際的視野を一層広げ、グローバル人材を育成するため体験活動を活用した実践的な国際教育を充実させる。</p> <p>③生徒主体の学校行事や生徒会活動を通して、豊かで幅広い人間力を養う。</p>	<p>①学習の基盤となる資質・能力の育成に資するため、ICT機器を積極的に取り入れ学習活動用回線を適切に活用した学習活動を充実させる。</p> <p>②外国語教育の充実や姉妹校交流等、積極的に国際社会へ参画する力を育成する。</p> <p>③-1 生徒主体の学校行事となるよう支援する。</p> <p>③-2 活動の成果をホームページ等で広報し、保護者・地域の理解につなげ、生徒の自己肯定感を涵養する。</p>	<p>①-1 学習ツールを活用した授業改善のための公開研究授業を実施する。</p> <p>①-2 取組みの成果を、校内外評価の実施により検証する。</p> <p>②-1 姉妹校交流をはじめ多くの生徒が関わりができる機会を作る。</p> <p>②-2 生徒主体のスピーチコンテストを実施する。</p> <p>③-1 体育祭、文化祭、合唱祭の運営を生徒主体のものとする。</p> <p>③-2 生徒の活動の様子をホームページ等で広報する。</p>	<p>①-1 公開研究授業が実施できたか。</p> <p>①-2 評価結果は肯定的なものであったか。</p> <p>②-1 姉妹校交流の実施できたか。多くの生徒が、国際理解につながる活動に参加したか。</p> <p>②-2 スピーチコンテストへの生徒の主体的な参加があったか。</p> <p>③-1 生徒主体の学校行事となったか。</p> <p>③-2 ホームページの他、様々な媒体で広報できたか。</p>	<p>①-1 学習支援ツール「ロイロノート」を活用した授業実践を共通テーマに校内研究授業を実施した。</p> <p>①-2 教員の創意工夫が生徒にも一定の評価を得られた。</p> <p>②-1 オーストラリア、韓国ともにインターネット会議システムで交流を行った。</p> <p>オーストラリア交流に19名、韓国交流に14名の生徒が参加した。</p> <p>②-2 生徒による進行等、生徒中心の運営ができた。</p> <p>③-1 体育祭は中止した。文化祭は実行委員がリーダーシップを発揮し、制約のある中、新たな形の文化祭が実施できた。</p> <p>③-2 新たな試みとして公式 twitter を開設した。生徒の活躍ぶりを広報した。</p>	<p>①-1 実施後の各教科の課題と成果について「報告書」を作成する。</p> <p>①-2 ICTアクセス環境等の整備を進める。</p> <p>②-1 スムースなオンライン交流となるようインターネットアクセス環境の改善が急務である。</p> <p>②-2 (1年生) レシテーションのテーマ設定に自由裁量を検討する。</p> <p>③-1 新たな試みとして行った動画発表やライブ放送等を今後生かせるよう工夫する。</p> <p>③-2 ホームページ等の更新頻度を上げ、より細かな情報発信となるよう広報活動を強化する。</p>	<p>①-1 授業確保の取組として ICT 機器を活用した授業が急速に推進された。アクセス環境の課題があるようだが改善に向けて取組んでほしい。</p> <p>①-1 新校初年度の取組みが「研究報告書」によくまとめられている。</p> <p>②-1 姉妹校交流等はオンラインで交流が持てたことは生徒にとって意味ある。現地交流の難しさがあると思うがオンライン交流を一層工夫して継続してもらいたい。</p> <p>③-1 制約のある中、文化祭を実施したことは、生徒から新しいアイデアが出される等、主体性や創意工夫の力を育む成果が見られる。制約がある中でも実施することに意義がある。</p>	<p>①-1 電子黒板、学習支援アプリ「ロイロノート」を活用した授業を進めることができた。</p> <p>①-1 1年間の取組みを「研究報告書」にまとめることができた。次年度に向けて内容の充実を図りたい。</p> <p>②-1 オーストラリア、韓国とのオンラインでの交流は、生徒同士のライブの交流が実現できた。</p> <p>②-2 体育祭は中止としたが、文化祭、合唱祭、球技大会とほぼ大きな学校行事は実施できた。新たな発表の形態として成果があった。</p> <p>③-2 公式 twitter を開設したことで広報媒体の幅が広がった。更新頻度等の管理を整理したい。</p>	<p>①-1 電子黒板等、ICT機器を活用した授業実践を引き続き推進する。また、職員向けの研修等を計画し、より効果的な活用方法に資するものとする。「生徒による授業評価」等により授業改善の成果について検証する。</p> <p>①-1 「令和3年度研究報告書」を作成する。視覚的な工夫を図り生徒の活動を見える化する。</p> <p>②-1 姉妹校交流等を引き続きオンラインで実施する。交流がより深まるようなテーマ設定や内容の工夫を図る。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①生徒一人ひとりに寄り添い、生徒理解にたった支援、相談体制を充実させる。</p> <p>②部活動の活性化を通して連帯感や責任感の涵養を図る。</p>	<p>①組織的な教育相談体制の充実を図り、SCやSSW等の専門機関との密な連携を図る。</p> <p>②活動の成果をホームページ等で広報し、保護者・地域の理解につなげ、生徒の自己肯定感を涵養する。</p>	<p>①SC等の見立てを踏まえケース会議等を開催する。</p> <p>②部活動等、生徒の活動の様子をホームページ等で広報する。</p>	<p>①ケース会議等、生徒支援の視点にたった組織的な生徒指導の取組みができたか。</p> <p>②-1 ホームページの他、様々な媒体で広報できたか。</p> <p>②-2 部活動の加入率の向上が見られたか。</p>	<p>①各学年に配置した教育相談コーディネーターにより、適切な規模の個別支援会議を必要に応じ開催するとともに、管理職およびSCを交えた定例コア会議で学年間の課題を共有した。</p> <p>②-1 部活動の実績をホームページ等で発信し、注目度が上がった。</p> <p>②-2 新校になり、部活動の加入率の向上が見られた。</p>	<p>①職員の支援スキルに資する教育相談に関する校内研修を定期開催する必要がある。</p> <p>②-1 来年度はさらに情報発信し広報活動に力を入れる。</p> <p>②-2 活動の成果をホームページ等で広報し、さらに部活動の加入率の向上を図る。</p>	<p>②-1 取組の成果等を外部に発信する工夫をし様々な人に横浜氷取沢高校の魅力を知ってもらいたい。</p> <p>②-2 大学での分析で、高校で部活動に入っていた学生の就職率がよい結果を得ている。部活動加入率が上がる指導を続けてほしい。</p>	<p>①-1 生徒支援会議等、校内の支援体制の整理ができた。引き続き、SC等の専門機関と連携した組織的な対応に努めたい。</p> <p>②-1 ホームページ等で教育活動の成果を発信することができた。更新頻度を上げるための工夫が求められる。</p> <p>②-2 生徒にとって魅力ある部活動の在り方を考えていく。</p>	<p>①-1 コア会議を定例開催し、生徒情報の共有を丁寧に行い、必要な支援策を迅速に対応する。</p> <p>②-1 ホームページ等の更新頻度を上げるため組織的な体制づくりを図りたい。</p> <p>②-2 部活動の勧誘方法等の工夫を図り、生徒にとって魅力ある部活をアピールしていく。</p>

3	進路指導・支援	<p>①社会との関わりや自己の在り方について、主体的に考える態度の涵養を図り、自己実現につながる進路選択となるような手立てを講ずる。</p>	<p>①-1 明確な進路意識をもてるよう3年間の計画的・体系的なガイダンス体制を充実させる。 ①-2 生徒の適性や希望に沿った進路実現となるよう進路選択を考える機会を充実させる。</p>	<p>①-1 成績動向票や外部模試等の結果分析から、生徒の希望や実態を把握し、適切にアドバイスを行う。 ①-2 進路室・自習室の整備をさらに進め、生徒の自学学習と進路選択に資する環境を整える。 ①-2 進路選択に有効な各種説明会を開催する。</p>	<p>①-1 学年ごとの成績動向や外部模試の結果が、生徒の進路実現につながったか。 ①-1 上位校への挑戦する生徒が前年度より増加したか。 ①-2 生徒の利用率が上がったか。 ①-2 説明会は生徒・保護者に参考となったか。</p>	<p>①-1 コロナ禍の影響で、外部模試等の実施回数は減ったが、動向票や、模試分析を行い、職員及び生徒に向けて分析会を行った。 ①-1 共通テスト受験予定者数 174 名と前年度ほぼ同数である。 ①-2 進路室からオンライン情報発信できるような環境整備に着手している。 ①-2 臨時休業中に3回、授業期間に6回、オンラインシステムも活用した説明会を行った。</p>	<p>①-1 各学年の意識傾向の分析と全国との対比から、複雑化する生徒のニーズに合った進路支援の機会を構築する。 ①-2 進路室、自習室が情報収集・発信の拠点となるよう限られた予算の中で整備を進めていく。</p>	<p>①-1 学校推薦での進学者が増えているようだが、大学での学習内容を十分に理解した上で受験先を決定するよう事前の指導を慎重にお願いしたい。進学後のミスマッチは本人の将来に影響が大きい。 ①-2 奨学金申請者数が増加傾向のようだが、様々な支援策について情報紹介をお願いしたい。</p>	<p>①-1 回数は減ったが外部模試を実施し、生徒の実力を測ることができたことは進路指導に有益であった。コロナ禍の影響で大学側の入試体制に多くの変更があったが混乱なく進路実現につながられた。 ①-2 進路室のエアコン配備等、環境改善を実現できた。生徒の利用者数が増加した。 ①-2 生徒、保護者向けのオンラインでの進路説明会には、多くの参加者があった。</p>	<p>①-1 3年間を見通した進路支援計画を充実させ、外部模試等の機会やデータをもとに、生徒の進路実現をめざす。 ①-1 生徒個々の適性を把握し、適切な進路となるよう導いていく。より上位校へ挑戦するよう丁寧に助言する。 ①-2 進路指導室や自習室の機能を充実させ、情報発信の場として活用していく。</p>
4	地域等との協働	<p>①家庭、地域の教育力を活用し地域との交流活動を通し、生徒、保護者、地域に信頼される開かれた学校づくりをめざす。</p>	<p>①-1 学校運営協議会の機能を活用した地域連携活動を行う。 ①-2 ホームページ等の広報媒体を充実させる。</p>	<p>①-1 学校運営協議会地域連携部会を活用した交流活動を行う。 ①-1 生徒中心の活動を推進し、全校生徒の参加機会を作る。 ①-2 ホームページを組織的な取組みとし、定期的に更新を行う。</p>	<p>①-1 学校運営協議会地域連携部会による交流活動が行えたか。 ①-1 生徒主体の活動が行えたか。部活動等、より多くの生徒が活動に参加できたか。 ①-2 ホームページの更新頻度が高まったか。</p>	<p>①-1 コロナ禍の中、書面開催とした。ボランティア部の活動を通して近隣の施設等との連携活動が実施できた。 ①-2 部活動や学校行事についてのホームページの更新が行われた。新たな広報手段として、公式 twitter を導入した。 ①-2 「横浜氷取沢通信」を作成し、地元自治会等に本校の取組みを周知した。</p>	<p>①-1 感染防止策を講じての対面開催を実施したい。当面ボランティア部を中心とした連携活動を進めたい。 ①-2 ホームページの更新を校内に広く呼び掛けるとともに、twitter を利用した広報に力を入れていく。</p>	<p>①-1 例年通りの地域交流は難しかったが、実施可能な形態を模索しながら次年度は対面での交流の機会を持ちたい。 ①-2 ホームページ、twitter 等、情報発信媒体を積極的に活用し、広報に努めている。</p>	<p>①-1 年度末の学校運営協議会を対面で実施し、委員のご意見を直接聴取することができた。 ①-1 地域交流の機会は一部の部活動にとどまった。 ①-2 公式 twitter を開設し広報媒体として本校の教育活動を速報的に発信することができた。更新頻度が課題となった。 ①-2 「横浜氷取沢通信」を地元自治会に回覧し、本校理解の一助とした。</p>	<p>①-1 学校運営協議会の機能を活かして生徒と地域との交流活動を推進する。 ①-1 3大行事の実施をめざし、生徒が主体的に取り組むよう支援する。 ①-2 ホームページ、twitter を組織的な取組みとし、更新頻度をあげるよう改善する。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①安全・安心な学習環境の維持に努め、点検・改善に努める。 ②信頼・信用ある学校経営に努め、事故不祥事根絶に向け、強い決意をもって臨む。 ③教員のライフワークバランスを推進するために、教員の働き方改革を推進する。</p>	<p>①-1 生徒の防災意識を高める教育機会を充実させる。 ①-2 資源の有効活用等、環境意識を高める取り組みを行う。 ②事故不祥事防止会議等を定期的に開催し、業務の点検を行う。 ③長期休業期間中の学校閉庁日の設定。夏季休暇の消化、年次休暇の取得推進を図る。</p>	<p>①-1 実践的防災訓練やPTAと連携した登下校指導等、生徒の防災意識の向上を図る。 ①-2 生徒環境整備委員等の活動を活発化させる。 ②-1 不祥事防止啓発資料等を用い定期的に点検を行い、職員の事故防止の意識を継続する。 ②-2 成績処理、調査書、推薦書の点検体制を確立し、適切な処理を実施する。 ③夏季休暇を完全消化する。</p>	<p>①-1 実践的防災訓練が実施できたか。 ①-2 生徒を中心とした古紙回収・再利用等の活動に取り組めたか。 ②-1 事防止に対する当事者意識の向上とヒヤリハット含めた事故防止はゼロにできたか。 ②-2 教科・グループ・学年が協働した正確な対応ができたか。 ③夏季休暇の平均取得日数が4日以上となったか。</p>	<p>①-1 集合型訓練は実施せず、電子黒板を利用して防災訓練を実施した。PTAと連携してバス乗車指導を行い、安全意識を高めることができた。 ①-2 生徒環境整備委員による古紙回収活動を行った。 ②-1 毎月職員会議冒頭に啓発資料を活用して事故防止研修会を実施した。 ③（取得期間延長となったが）夏季休業期間の短縮により完全消化とはいかなかったが、多く取得できた。 ③学校閉庁日を計画通り実施した。</p>	<p>①-1 ICTを活用した防災訓練の実施等、新たな形態の訓練を考えていく。 ①-2 生徒による継続的な活動を支援し、ゴミの削減に努める。 ②-1 外部講師招聘しての研修会を計画する。 ③引き続き年休取得を推進する。</p>	<p>①-1 生徒に対する防災意識の啓発活動は一層進めてほしい。地域と合同実施等、地域の中での学校として協力願いたい。</p>	<p>①-1 電子黒板を使用した防災訓練を実施した。喫食訓練等、実践的な内容を取り入れることができた。 ①-2 資源活用の取り組みは、次年度も引き続き取り組みたい。 ②-1 職員の不祥事防止研修会を年間通じて実施した。 ②-2 成績処理等の点検業務を組織的な体制で実施することができた。点検の一層の正確さを図りたい。 ③ 職員の休暇取得は、おおむね良好な状況であった。</p>	<p>①-1 防災意識を高める実践的防災訓練を実施する。 ①-2 環境問題をテーマに様々な課題について生徒に考えさせ活動につなげる。 ②-1 不祥事防止の根絶を職員全員で取り組み、啓発資料等を活用し定期点検を実施する。外部講師による研修会を開催する。 ②-2 成績処理等の点検業務への意識を高め、より正確なものとする。 ③夏季休暇、年次休暇等の取得について推進し、取得日数4日以上をめざす。</p>